令和6年度　　学校評価（自己評価表）　　米子北高等学校

建学の精神	基本的生活習慣（躾）の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校 教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度 重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. すべての人にとって、安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・ 地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価 中間	自己評価 最終	関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の推進	新課程3年目を迎え、全ての学年に新しい学習評価が適用される。旧課程では考査得点に大きなウエイトがあったため、点数が取れない生徒が成績会議に名前があがっていたが、授業や課題への取り組み姿勢にも同等のウエイトが置かれることにより、成績会議対象者が減ってきている。	新課程の学習評価をより適切に行うために、各教科で使用教材や学習方法を見直し、改善点を模索する。Chromebookを有効的に活用できるように他校の様子に目を向け、研修等を積極的に活かす。	令和8年度入学生用から教科書の改訂が行われる。そのタイミングに合わせて、各教科で教科書と副教材の見直しをしていきたい。また教育課程についても、各教科の意見を確認し、各コースの目標や目的により適したものに改定できればと考えている。Chromebookの使い勝手についてもメーカーや機能の確認をしていきたい。					
	進路	進路保障を担う進路指導の充実	昨年度の専門学校・短期大学・四年制大学に進学した生徒は182名となり全体の83%に値する。そのうち、看護専攻科に内部進学した生徒を除けば、72%が県内外へ進学していったことになる。受験形態の内訳は、以下になる。総合型選抜36%、学校推薦型選抜56%、一般選抜8%であった。 1年次は総合的な授究の時間を通じて職業観の育成に務めている。就職探究セミナーでは、外部機関と連携し、2年次に就職ガイダンスを1回、インターンシップを1回実施し、3年次には最後の職業別ガイダンスを1回実施している。生徒個人のキャリアアップに繋がるよう計画的な指導を行っている。	昨年度も総合型選抜や学校推薦型選抜など、年内に合格を決定する生徒が92%をしめ、実態に合った指導が求められる。具体的には実用英語技能検定2級取得・GETCスコア880点以上、志望理由書・小論文対策である。 担任団と協力し、進路実現のために生徒自らが積極的に取り組むことができるようにする。具体的には、公務員対策講座参加、2社以上の会社見学や面接指導、履歴書の指導が挙げられる。	＜1年次＞職業観を育てるため、地元で活躍される社会人にお越しいただき、職業ガイダンスや職場体験を展開する。「働くとは」「お金を儲けるとは」「社会に貢献するとは」「仕事の面白さ、やり甲斐」など、聞いたり見たり経験することで社会人先生から学ぶ。 ＜2年次＞進学は「なりたい自分」に近づくための適性診断や自己分析、他己分析により自己理解を深め、小論文対策など自己表現力を高める。就職は就きたい職種から企業を調べ、プレゼンテーションで表現力を高める。また、来たるべき就職試験に向け面接練習を行う。 ＜3年次＞進学は志望校から受験校へ変わり、志望理由書の作成、面接指導、受験カレンダーなどの作成により行動計画を立てさせる。就職は就職活動の一環として自己ピーアルの作成、挨拶練習、求人票の見方、履歴書の作成等を実施する。					
	情報	BLEND機能の積極的活用と chromebook利用の教員研修	今年度より1人1台端末は高等学校3学年整備済みとなった。いまだに教科や授業によって、積極的に活用されていない場面もある。授業以外の課外活動においても、活用できていない現状がある。	ICT機器を授業以外での活用を推進する。同時に生徒の情報活用能力の育成を行っていく。教職員への活用研修や相談会を学期に1回は開催する。	ICT機器をクラス朝礼での活用推進を研修を通して実施する。また、生徒の情報活用能力を向上するような取り組みを実施していく。探究学習や部活動など課外活動での活用を推進したい。そのための研修を実施する。					
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	出欠についてはBLENDへの入力漏れや入力ミスがあると正確な欠時数が把握できないため、小まめな点検が必要である。学年部長が入力されているか日々注意して確認をされており、BLEND導入時よりも格段に漏れが少なくなってきている。	担任・学年部長・授業担当者で連携を図り、出欠入力を徹底するとともに、欠時数が増える傾向にある生徒を把握し、早期の段階で生徒や保護者への指導を行う。	担任が1日の終わりに全ての出欠が入力されているかを点検し、それを最終的に学年部長が確認して出欠一覧表を教務部に提出する。長欠や教育的指導の生徒は手書きでの記載をする。今年度は教務部の方でも入力漏れがないかを確認するような担当を各学年設定している。					
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブルが絶えることがなく、教員が間に入って解決する場面もある。また、登下校時の交通マナー等について近隣住民からの苦情も入ってきている。	人間関係によるトラブルについては、相手の気持ちを考えた上での発言や行動を意識させる。交通マナーについては、門前指導等で指導していく。	4月当初に「ネットモラル教室」においてネット犯罪等の被害や予防策について考えさせる。SNSによるトラブルについては、教育目標を意識したより良いコミュニケーションの取り方を指導していく。交通マナーについては、「交通安全教室」等により、「自分の命は自分で守る」という意識を向上させるよう指導していく。					
3. すべての人にとって安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	1クラスにおける男女比の違いや生徒の人間関係を理由に、自分の教室に居場所を感じられない生徒がいる。他者に配慮した言動とは何か、人権教育を通して、安心、安全な学校生活を点検していく必要がある。	人権教育講演会及びLHRの感想文で生徒の考えを知る。また学校生活アンケートやhyper-QUを実施と分析を行い、場合によっては、適切なタイミングでSCを活用する。	学校生活アンケートの内容を一部見直し、変化をつける。またアンケート等によって知り得た情報や各委員会で出てきた情報を、分かりやすく共有し、日常生活の中で、生徒への声かけ等を教職員全体の共通理解としたい。					
	環境美化	SDGsの理解と実践	様々な地域から生徒が集まっているが，ゴミの処分のルールも自治体によって異なっている。また，在校生の中にも分別がルーズになっている生徒も見受けられる。校舎内の掃除の徹底ができていない箇所もある。	環境・健康やエネルギー問題を意識し，実践できるようになる。また，物を大切に使用し，公共の場の美化に努める行動を取れるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通し，ゴミの分別や、ゴミを減らしたり，節電や清掃活動など，環境を考えた行動や，健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。					
	事務	施設の整備・点検	施設老朽化に伴う危険個所の修繕、機器設備等の更新。	外施設については、用務員・夜間守衛の開錠・施錠見回り点検での報告。内部施設については、担任等からの報告により情報収集。	・1校舎のリノベーション ・第2体育館のLED化（暗い・危険） ・第3、第4校舎のLED化					
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	生徒募集関係の行事をより充実させるべく企画立案を進めている。教育振興会活動においては、コロナ禍で中止または形を変えていたものを従来の形に戻すことで、活動の再活性化を図るべく、各行事の計画をに取り組んでいる。	情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	オープンスクールや学校説明会開催の周知を早めに行うこと、そして特にオープンスクールの内容を充実させることで、本校教育について広くアピールする。また、機関紙「北振」、登校視察、交流会等の教育振興会活動を通して保護者との連携を強化する。					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われる予定である。	地域からの活動依頼に積極的に応えると共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	あいさつ運動の実施や地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導、ヘルメット着用の呼びかけ等を実施している。ヘルメットの着用率が依然として低く、自転車マナーとあわせて改善が必要である。	日頃より交通ルールを遵守するよう心がけさせ、さらにはヘルメットの着用率を上げる策を講じる。また、挨拶を積極的に行うように指導していく。	先生方のご協力によって毎朝の門前指導(挨拶・交通マナー・服装指導)を実施し、生徒の規範意識を向上させる。また自転車通学の生徒に対して「ヘルメットを購入している」か、「きちんと着用しているか」等を確認する通学許可願を年度毎に提出させ、ヘルメット着用率の向上を目指す。					
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉施設、地域との連携	・新型コロナ感染症以降、医療専門職への関心は高まってきている。生徒は高校2年次より臨地実習のため医療福祉施設との連携も重要となってくる。 ・効果的な学習や、地域で暮らす人々を支えるために引き続きの調整が必要である。	・教員・生徒共に感染予防対策を十分に行い、臨地実習効果的に行えるよう実習施設と連携を図る。 ・看護師国家試験　全員合格をめざす。	・感染予防対策の習慣化 ・カンファレンスをとおして、臨床指導者との連携をはかる。 ・日々の学習、実習記録の練習など臨地実習 ・国家試験　模試の効果的な利用、模試後の勉強会の実施					
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	総合的な探究の時間を活用し、1年次に「社会人先生に聞く」、「職場体験」を実施し地元企業様と連携し職業観の育成に務めた。2年次は米子市や大山町など地域と連携しボランティア活動、また地域の自然や歴史とむ気合い、地域にある課題を解決するなど取り組んだ。大学と連携した学問探究を実施した。	学年やコースの探究テーマに則した活動をする。その中で課題解決に向た情報収集や情報分析など仲間と協働して取り組む力を身につけさせる。また、課題のまとめや発表といった表現力を高めることを目標とする。	1年次はガイダンスや職業体験を通じて「職業観」を学び今後の高校生活をどのように送るべきか「なりたい自分」×「高校生活」レポートの作成する。 2年次は「なりたい自分」に近づくために、ボランティア活動や地域・学問探究を通じ表現力を高める。また資格取得等自分磨きに励む。 3年次は「進路保障」を目標に志望理由をまとめる。面接練習実施。					

評価基準　　A:：十分に達成している　　B：概ね達成している　　C：　取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない　　D：より一層のまたは新たな方策が必要である